

1 主要野菜の生産出荷状況

種類	6月の価格動向				7月の見通し			
	(参考)保証基準額の算定の基となる平均価格	指定野菜の関東・近畿ブロック旬別平均販売価額(上段:関東、下段:近畿)(速報値)						
		上旬	中旬	下旬	主産地の概況	卸の見通し(上段:関東、東京青果株、下段:近畿:大果大阪青果株)		
葉 茎 菜	キャベツ	67.20	58	60	76	・入荷見込量:15,280t(100) ・主産地:群馬(63)、岩手(15)	関東の産地では、作柄は昨年並み、出荷量は前年並みの見込み。 今年是全国的に順調で入荷、価格ともに前年並。 生育は順調で昨年並みの入荷を見込み、価格は前年の高値に及ばず安値を予想。	
		81.66	59	75	93	・入荷見込量:4,000t(105) ・主産地:長野(40)、群馬(39)		
	ねぎ	264.10	436	349	335	・入荷見込量:4,030t(100) ・主産地:茨城(60)、千葉(14)	関東の産地では、生育は順調。作柄は良好。順調な出荷が見込まれる。 生育は順調で入荷は前年並み、価格は中国産の減少の影響で昨年を上回る見込み。	
		334.73	359	347	336	・入荷見込量:240t(104) ・主産地:香川(30)、大阪(22)		
	はくさい	67.05	56	61	85	・入荷見込量:6,640t(100) ・主産地:長野(86)	高冷地では、6月まではやや前進化していたが下旬の低温によりやや遅れる可能性もあるが、出荷量は前年並みの見込み。 関東の産地では5月の天候不順の影響も無く生育は順調で作柄は良い。出荷量は少なかった前年を上回り、昨年並みとなる見込み。	
		82.06	73	74	97	・入荷見込量:2,400t(99) ・主産地:長野(98)		
	ほうれんそう	376.10	415	451	426	・入荷見込量:1,050t(100) ・主産地:岩手(24)、茨城(21)、栃木(20)	関東の産地では生育は順調、出荷は昨年より3、4日早い見込み。 東北の産地では生育、出荷ともに順調で出荷量は前年並みの見込み。 今年東北、北海道産が量的に多く価格を引っ張ると予想され、入荷は前年並で価格は昨年には届かない見込み。	
		396.89	457	559	499	・入荷見込量:360t(89) ・主産地:岐阜(75)、北海道(13)		
	レタス	126.45	165	156	127	・入荷見込量:8,410t(102) ・主産地:長野(78)、群馬(15)	関東の産地では作柄はやや不良。出荷量は少なかった前年並みの見込み。 今年標準高冷地で生育順調と予想され入荷は前年よりやや増加し、価格は昨年を下回る見込み。 前月の天候不順の影響が前半まで続くも、後半より増加してくる見通しで下押しを予想。	
		132.22	190	173	137	・入荷見込量:1,900t(111) ・主産地:長野(96)		
たまねぎ	71.02	78	75	73	・入荷見込量:9,890t(100) ・主産地:佐賀(51)、兵庫(20)	近畿の産地では出荷のピークは7月中旬から下旬で、豊作傾向から出荷量は前年をやや上回る見込み。 今年中生になって肥大回復し入荷は増える見込み、価格は昨年を下回る見込み。 適度な降雨もあり作柄は概ね良好。後半増加傾向で順調な入荷が予想されるが前年をやや下回る見通し。価格は下押しも前年より高めで安定した推移を予想。		
	71.02	78	73	70	・入荷見込量:3,100t(103) ・主産地:兵庫(86)			
果 菜	きゅうり	189.84	237	211	207	・入荷見込量:7,090t(100) ・主産地:福島(41)、岩手(18)、秋田(11)	関東の産地では4月の日照不足により、出荷量が前年を下回って推移。 今年量的に前年並だが、価格は前年をやや上回る見込み。 促成ものの切り上がりと露地ものがやや遅れ、前半は少ない見通し。後半より回復して下押しを予想。	
		177.22	216	223	225	・入荷見込量:1,850t(105) ・主産地:福島(36)、愛媛(22)		
	トマト	209.59	250	262	256	・入荷見込量:7,900t(101) ・主産地:青森(20)、栃木(12)、福島(10)、茨城(9)	関東の産地では、5月下旬から出荷が始まり一部産地で生育遅れも見られるが、出荷量は前年並みの見込み。 今年群馬や青森は中旬から本格化し、入荷は前年をやや上回り、価格は昨年を上回る見込み。 北海道産の出遅れも回復に向かい、入荷は昨年を下回るも前年並みの見通しからやや安値を予想。	
		228.53	229	246	254	・入荷見込量:1,750t(104) ・主産地:北海道(22)、熊本(16)		
	なす	297.07	338	335	371	・入荷見込量:3,910t(98) ・主産地:栃木(26)、群馬(24)、茨城(24)	関東の産地では、5月の低温で出荷量は少なめとなっている。 今年全般的に作柄が悪く、入荷、価格ともに昨年を上回る見込み。 日照不足等の影響による出遅れも後半回復に向かう見通し。価格は前半高値、後半下押しを予想。	
		285.27	313	324	301	・入荷見込量:1,150t(103) ・主産地:奈良(11)、徳島(21)		
	ピーマン	251.50	362	407	337	・入荷見込量:2,120t(98) ・主産地:茨城(64)、岩手(23)	関東の産地では品質・肥大ともに良好。昨年並みの出荷が見込まれる。 今年茨城産が早めに切りあがる方向で出回りは増えることなく入荷は前年をやや下回り、価格は昨年を上回る見込み。 降雨や低温の影響により出荷ペースは鈍い見通し。前半少なめ、後半より増えてくる見込みから下押しも昨年を上回る価格を予想。	
		253.95	278	358	395	・入荷見込量:360t(106) ・主産地:北海道(18)、兵庫(13)、和歌山(12)		
	根 菜	だいこん	91.15	63	74	68	・入荷見込量:9,420t(100) ・主産地:北海道(50)、青森(39)	北海道は生育は順調であるが、作付面積の減少から出荷量は前年をやや下回る見込み。 関東の産地は作柄は並。出荷量は前年並みの見込み。 今年青森産は遅れ気味に始まり、千葉産も作付けの減少で少ないと予想される。価格がしっかりすることで入荷は前年並み。価格は昨年よりもやや高い。 北海道産の作付けがやや増えており生育も順調。入荷は前年ほどの量は見込めないが昨年を上回り、価格は前年並みを予想。
			104.71	66	83	78	・入荷見込量:2,500t(95) ・主産地:北海道(58)、青森(12)	
にんじん		133.01	232	200	205	・入荷見込量:6,940t(95) ・主産地:青森(46)、千葉(25)	東北の産地では前年より作付けを増やしたものの早魃の影響により出荷量は前年並みの見込み。 今年関東産地は昨年のような豊作でなく昨年並となり、価格は昨年を上回る見込み。 生育は概ね順調に推移しているが、入荷は潤沢だった前年を下回り、価格高を予想。	
	139.60	177	175	192	・入荷見込量:2,500t(101) ・主産地:青森(40)、北海道(23)			

種類	6月の価格動向				7月の見通し	
	(参考) 保証基準額の 算定の基となる 平均価格	指定野菜の関東・近畿ブロック旬別平均販売価額(上段:関東、下段:近畿)(速報値)				
		上旬	中旬	下旬		
いも	344.00	455	528	464	—	—
	347.90	636	606	459	—	—
	131.80	137	140	138	・入荷見込量:5,420t(90) ・主産地:長崎(24)、茨城(22)、千葉(21)	長崎産は出荷が切り上がり、平年並みの出荷が見込まれる。 今年豊作だった昨年に比べ入荷量は減少し、価格も平年よりも高い見込み。
	131.80	139	150	147	・入荷見込量:2,800t(104) ・主産地:長崎(38)、北海道(21)、千葉(16)	順調な出回りも入荷は前年ほど多くなく平年並みとなる見通し。価格は前年の安値を上回る予想。

1) 平均価格は、過去9年間の中央卸売市場の各指定野菜の卸売価格を物価指数で修正した価格の平均(消費税は除く)。
2) 旬別平均販売価額の青は保証基準額を上回るもの。赤色は下回るもの(消費税は除く)。
1) 入荷見込量は関東農政局及び近畿農政局「野菜の入荷量と価格の見通し」による。()内は前年対比。
2) 主産地は東京都及び大阪市中央卸売市場への出荷の多い県名。()内は入荷シェアであり、関東は本年の見込み、近畿は前年の実績。
3) コメントは、都道府県、出荷団体、都道府県野菜価格安定法人等からの聴取りをもとに機構が作成したものである。
1) 「卸の見通し」の内容は、東京青果株式会社「野菜展望」、大果大阪青果株式会社「虹」をもとに機構が編集したものである。
2) その後の気象条件の変化等により変動があり得る。

2 野菜の需要動向

家計調査による1人当たりの生鮮野菜の購入量は1~3月は前年をやや上回って推移し(前年対比1月:104.6%、2月:104.5%、3月:101.9%)、4月は前年並(同99.8%)、5月は前年をやや下回って(同96.2%)いる。
本年1~3月の小売価格については、レタスは過去3カ年に比べやや低く、トマトは同程度となっている。

年	(1人当たりの購入量、金額)					
	平成20年		平成19年		過去5年平均	
月	購入量(g)	金額(円)	購入量(g)	金額(円)	購入量(g)	金額(円)
1月	4,341	1,479	4,148	1,487	3,981	1,524
2月	4,471	1,582	4,279	1,447	4,218	1,566
3月	4,763	1,735	4,674	1,629	4,527	1,692
4月	4,896	1,786	4,904	1,794	4,667	1,775
5月	5,020	1,876	5,215	1,891	5,068	1,876
6月			5,081	1,827	4,955	1,860
7月			4,488	1,700	4,391	1,681
8月			4,392	1,766	4,257	1,648
9月			4,784	1,807	4,678	1,730
10月			5,151	1,870	5,110	1,814
11月			4,969	1,632	4,832	1,576
12月			5,194	1,869	5,041	1,779

資料:総務省「家計調査報告(二人以上世帯農林漁家世帯を除く)」

2 主要野菜の月別小売価格の推移

月	(単位:円/kg)			
	レタス		トマト	
	平成20年	過去3カ年平均	平成20年	過去3カ年平均
1月	344	497	607	597
2月	364	425	616	595
3月	370	394	603	603
4月		353		593
5月		363		583
6月		323		503
7月		271		523
8月		381		558
9月		337		599
10月		321		665
11月		281		639
12月		333		651

注:過去3カ年は平成17~19年

資料:農林水産省「全国の主要都市における主要野菜の小売価格・販売動向」

3 野菜の輸入動向

中国からの野菜の輸入量は、平成17年には165万トンであったものが、19年には、87%の141万トンとなり、さらに本年1~5月では対前年同期比77%となっている。
一方、直近の6月の輸入量を植物検疫統計で、中国からの輸入の多い主な品目をみると、対前年比8割~9割程度と回復がみられ、にんじんについては前年を超えている。

区分	平成17年			平成18年			平成19年		
	前年比	平成19年1~5月	平成20年1~5月	前年比	平成19年1~5月	平成20年1~5月	前年比	平成19年1~5月	平成20年1~5月
生鮮野菜	663,115	604,173	446,360	74	193,711	116,225	60		
加工野菜	990,740	1,017,765	967,224	95	416,505	352,306	85		
中国産野菜合計	1,653,855	1,621,938	1,413,584	87	610,217	468,531	77		
野菜輸入量合計	2,911,336	2,787,105	2,506,416	90	1,117,048	992,865	89		
中国産シェア	57	58	56		55	47			

資料:財務省「貿易統計」

直近の主な野菜の輸入動向

品目	輸入先	(単位:トン、%)		
		(A)2007.6	(B)2008.6	(B)/(A)
たまねぎ	合計	28,403	24,961	87.9
	中国	28,161	24,404	86.7
	米国	12	27	225.0
にんじん	合計	4,477	7,333	163.8
	中国	4,290	5,383	125.5
ねぎ	合計	3,805	3,039	79.9
	中国	3,804	3,038	79.9

資料:農林水産省「植物防疫検査統計」(2008.6は6月第4週現在で速報値である。)

4 トピック

第4回野菜需給協議会開催
6月30日、第4回野菜需給協議会が開かれた。概要は右欄のとおり。

(参考):野菜需給協議会とは
野菜のほ場廃棄に対する各方面からの「もったいない」等の批判に対応するため、平成19年5月に設置された協議会で生産者、消費者、流通業者等の関係者、学識経験者を構成員(座長:中村靖彦東京大学客員教授)とし、需給状況の周知や価格低迷時の消費拡大への取組等により野菜の需給安定を図ることを目的としている。
今年度から事務局が農林水産省園芸課から独立行政法人農畜産業振興機構に移行。

協議会の詳細は以下のウェブサイトを参照。
<http://alic.vegenet.jp/jukyuu.htm>

・最近の野菜価格の動向について、4月、5月は全国的に寒暖の変化が大きく、真夏日もあったものの、総じて入荷量、価格ともに平年並みに推移したが、6月に入り、5月の曇雨天の影響から、入荷量が前年を下回り、価格も前年、平年を上回って推移した。
・『冷房ほどほどクールベジ』と銘打ち、簡単にユニークな夏らしい野菜メニューの提案を行うことで、野菜消費を喚起させようといった提案がなされた。
・新たな「緊急需給調整フレーム」が策定されて最初の市場隔離が本年2月に九州で実施されたが、収穫適期が短く貯蔵もきかない野菜の品質特性を踏まえ、機動的な対応が必要である等との意見が出された。また、価格が大幅に低下した際には再生産も困難になりかねないといった産地サイドの情報をもっと消費者に提供すべきではないか等の意見が出され、生産者・消費者の情報共有の重要性が確認された。

